

「骨董と友情は両立するか」

青柳 恵介 × 骨董 談 義

< 第 四 回 >

青柳恵介 × 勝見充男

私の借金が溜まると、勝見さんは私の所にやってくる。私の貧弱な所持品を並べると、情けないなあという表情を浮かべながらも、何かを選び、「これ売って」と品物を胸に抱く。勝見さんの選ぶものは、意外なものばかりだ。「自分が出来そこないだと、ものも出来そこないがいいんでしょう」と私が言うと、露骨に嫌な顔をする。善意まる出しの人間には、自分は冗談を言うくせに他人に冗談を言われると通じない人が多い。借金と私の売ったものの値段がとんとんになると、お互いが「ああ儲かった、君に損させたねえ」と言い合いながら祝盃をあげる。したたか飲んで、さよならを言おうとすると、急に勝見さんは真顔になり「ケースケさん、さっきの出来そこないっていうのを撤回して」と迫る。「撤回する」と言うや、彼はとろけるような笑顔を浮かべて、夜の闇に消えて行く。

「骨董屋という仕事—三五人の目利きたち」(平凡社)より抜粋

2016 09月18日(日)

開場 16:30

開演 17:00~

(2ステージ 入替なし 途中入場可) (1drink=600円~)

会費 3500 円 + 2drinks order

CAFE BEULMANS

お問合せ: info.cafebeulmans@gmail.com

TEL: 03-3484-0047

世田谷区成城6-16-5 カロザ成城2F

イベント日以外 営業時間

cafe time 15:00 -

bar time 19:00 -

火曜日・日曜日定休 イベント日以外

メールでのご予約の場合、必ず当日ご連絡がとれる電話番号をご記載ください。



青柳恵介 (あおやぎ・けいすけ)

1950年 東京生まれ。成城大学大学院博士課程終了(国文学専攻)。2013年まで成城学園教育研究所勤務。古美術評論家。若い頃から骨董を好み、古美術評論家として美術雑誌にエッセイを寄稿する。古美術愛好が縁で、白州正子氏と親交を結び、日本の古典文学、古美術など、様々な面で啓発を受ける。著書に「風の男 白州次郎」(新潮社)「骨董屋という仕事」(平凡社)「柳孝 骨董一代」(新潮社)「民芸買物紀行」(新潮社)「白州次郎と白州正子~乱世に生きた二人~」(新潮社)等がある。

勝見充男 (かつみ・みつお)

1958年、東京・新橋で古美術商を営む家に生まれる。十代から西洋骨董に目覚め、西洋骨董店で10年修業をした後、「自在屋」4代目を継承。和洋の粋を超えた視線で骨董をとらえ、新しい潮流を作り出している。

著書に『骨董自在なり』など多数。テレビ『開運 なんでも鑑定団』準レギュラー。